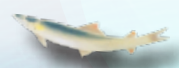


京都丹波で 鮎を学ぶ



京都産業大学 鈴木ゼミ生が鮎と暮らしのお話を聞かす人々

今まで知らなかった、鮎とともに歩む人々の暮らしがあった。
 鮎や京都丹波への熱い想い、刺さった！
 京都丹波という地で、鮎と人が紡ぐ物語に出会えました。
 豊かな自然と人の温もりに触れられる京都丹波が大好き！
 鮎や自然を守っていききたいという意思に強く共感した。
 森の京都エリアは自分のお気に入りスポットです。
 また京都丹波を訪れて、自然を味わいたい。
 京都丹波の自然と鮎が織りなす魅力に心惹かれました。
 地元の人々の、鮎と自然を未来へ繋ぐ強い意志を感じました。

京都産業大学鈴木ゼミは、京都府南丹広域振興局と協働で 2024 年度から「京都丹波鮎の魅力発信事業」に取り組んできました。

本冊子は、鮎とともに暮らしの人々のもとを何度も訪れ、取材を重ねて作成しました。京都丹波を故郷とする人も、移り住んだ人も、この地での仕事に誇りを持ち、お客さまの喜ぶ顔をやりがいとしている姿が印象的でした。そんな人々の想いに直接触れ、四季折々の自然とともに育まれる暮らしを目の当たりにしたことで、今まで知らなかった「鮎に息づく文化の魅力」を感じることができました。その魅力を私たち学生の視点でとらえ、次世代にも伝えていきたいという想いを込めています。

本冊子を通じて、多くの方々に京都丹波の鮎との暮らしに触れていただき、地域がよりにぎわうきっかけとなれば幸いです。

最後に、お忙しい中取材にご協力くださいました京都丹波の皆様へ、深く感謝申し上げます。



制作協力 京都産業大学現代社会学部 鈴木ゼミ、京都府南丹広域振興局 枕川楼、すみや亀峰菴、八光館、美山漁業協同組合、角屋、道の駅「和」、京都府内水面漁業協同組合連合会
 デザイン アトリエ雨音

※ 裏表紙の鮎のイラストは、イベントで子どもたちが描いてくれた鮎です。

今まで知らなかった 京都丹波の 鮎と暮らし

